

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	大原 啓市		
授 業 科 目	情報処理論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 オンライン講義で課題提出と提出確認ができるように講義する。 Google Workspace の基本アプリの PC とスマホでの利用を講義する。 Windows とワード・エクセル・パワーポイントの基礎を講義する。 【到達目標】 ・オンライン授業における課題提出・受講方法を習得する。 ・実習を通してワード、エクセル、パワーポイントの操作法を習得する。 ・情報倫理を理解する。				
	パソコンのログイン・Google Workspace の活用 1. パソコンのログイン・Google Workspace の活用 【情報倫理】オンライン授業での心がけ（録画・スクショ） 2. Section1 【Word 活用術】STEP4 レポートとして文章を整理する【スタイル・表紙・ページ番号】 【情報倫理】アクセシビリティ・ユニバーサルデザイン 3. Section1 【Word 活用術】STEP4 レポートとして文章を整理する【アウトライン・目次・表紙・脚注】 【情報倫理】フェイクニュースの社会への影響 4. Section2 【Excel 活用術】STEP1 書式を付けて見やすく編集【3 桁区切り・和暦表示】 【情報倫理】著作権法の改正とネット配信 5. MOS 検定【Word】模擬プロジェクト【スタイル・表紙・ページ番号・目次・参考資料】 6. Section3 【Word & Excel 活用術】STEP1 【Excel の表とグラフを貼り付ける】 【情報倫理】著作権法の改正とネット配信・AI チャットボット・フィッシング、詐欺行為 7. Section2 【Excel 活用術】STEP2 「厳選」関数を使いこなす【構成比・絶対参照・ROUND・RANK.EQ】 【情報倫理】AI チャットボット・フィッシング、詐欺行為 8. Section2 【Excel 活用術】STEP2 「厳選」関数を使いこなす【構成比・絶対参照 9. Section1 発展学習『クリスマスパーティーのお知らせ』【ワードアート・テキストボックス】 【情報倫理】財産権と人格権、著作物の扱いについて 10. Section1 練習学習『二次会開催のお知らせ』【図形描画・地図作成・グループ化】 11. 【Word & Excel 活用術】STEP2 【データを連携させる】【差し込み印刷・横書き】 12. Section2 【Excel 活用術】効率化を図る【VLOOKUP 関数】 13. Section2 【Excel 活用術】効率化を図る【IF 関数・AND 関数・OR 関数・関数のネスト】 14. MOS 検定【Excel】模擬プロジェクト 15. MOS 検定【PowerPoint】模擬プロジェクト 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『教科書【リファレンス動画付き】つくりたい！がカタチになる 学生のための Office スキル活用&情報モラル 改訂版』：noa 出版（著、編集）				
事前学習の内容	予め各授業回のテーマに沿った下調べを各自行うこと。 タッチタイピングの練習をしっかりと行うこと。				
事後学習の内容	各回授業で取り組んだ内容を復習する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎回の課題について提出条件を満たすレベルまで取り組む授業態度（20%） Classroom 課題（60%）、発表会（20%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	全 円子		
授 業 科 目	国語表現法演習		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 話しことば、書きことばの両面から日本語の効果的な表現方法を学ぶことによって、実践力を養う。話しことばの面では、基本的なことがらについて理解を深めるだけでなく、スピーチ力や電話応対力を身に付けることが可能となる。書きことばの面では、小論文・レポート・レジュメ・手紙を書く上で望ましい文章表現について確認し、実作することで、文章表現力の向上が可能となる。 【到達目標】 話しことばについては、ディベートも体験することで、コミュニケーション能力を高めるだけでなく、論理的に話す能力を身に付ける。書きことばについては、社会人になった時、現場で対応できる文章力を実作を通して確認する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. シラバス説明、ポートフォリオについての説明、第1課（日本語の話し方、振り返り） 2. 第1課（日本語の話し方 本文） 3. 第4課（スピーチをしよう） 4. 自己PR（第1グループ）、第2課（日本語の表記 振り返り） 5. 自己PR（第2グループ）、第2課（日本語の表記 本文） 6. 自己PR（第3グループ）、第3課（文章表現と文章構成 振り返り） 7. 自己PR（第4グループ）、第3課（文章表現と文章構成 本文） 8. 自己PR（第5グループ）、第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 振り返り） 9. 第5課（小論文・レポート・レジュメ・論文を書こう 本文） 10. 第6課（敬語を学ぼう 振り返り 本文） 11. 第6課（敬語を学ぼう 練習問題） 12. 第7課（手紙を書こう 振り返り 本文） 13. 第8課（電話をかけよう 振り返り 本文） 14. 第9課（ディベートをしよう 振り返り 本文） 15. 第9課（ディベートをしよう 実践） 自己評価 他者評価 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト 『改訂新版 基礎から学ぶ日本語表現法』（山根智恵・久木田恵、大学教育出版） 参考図書 『敬語再入門』（菊池康人、講談社学術文庫） 『新しい国語表記ハンドブック第8版』（三省堂編修所編、三省堂） 『大学生と留学生のための論文ワークブック』（浜田麻里他、くろしお出版）				
事前学習の内容	課題とする文章表現について調べる。				
事後学習の内容	毎回授業後に出された課題を、原則次の授業までに行い、提出する。				
評 価 の 方 法 基 準	学修ミニレポートなど授業への取り組み（10%） ポートフォリオ（90%）（1～9 課 各課 10%）				
履 修 上 の 注 意	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ 1		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	実技	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 様々なスポーツの実践を通じて、体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身に付ける。これまでに体育等であまり経験することのなかったスポーツを主に実践する。 【到達目標】 ・ スポーツ・運動の意義について理解できる。 ・ 各種スポーツのルール等を理解し、実践することができる。 ・ 各種スポーツの特性を理解し、体力の保持増進に取り組むことができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、バグジー 2. ピロポロ 3. インディアカ 4. ミニテニス①：基礎的技能の練習 5. ミニテニス②：応用的技能の練習 6. ミニテニス③：ゲームとスキルテスト 7. キックベースボール①：基礎的技能の練習 8. キックベースボール②：応用的技能の練習 9. キックベースボール③：ゲームとスキルテスト 10. フラッグフットボール①：基礎的技能の練習 11. フラッグフットボール②：応用的技能の練習 12. フラッグフットボール③：ゲームとスキルテスト 13. ビーチボール①：基礎的技能の練習 14. ビーチボール②：応用的技能の練習 15. ビーチボール③：ゲームとスキルテスト 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。 各種目の基本的なルールについて予習しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	ワークシート（20%） スキルテスト（80%）				
履 修 上 の 意 注	運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁		
授 業 科 目	スポーツ2		科目区分	関連科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	実技	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 様々なスポーツの実践を通じて、体力の向上を図り、健康を保持増進しようとする意欲や態度を身に付ける。ルールや用具を工夫し、これまでに体育等で経験してきたスポーツを主に実践する。 【到達目標】 ・各種スポーツの知識・技能を身に付ける。 ・各種スポーツのルール等を理解し、実践することができる。 ・各種スポーツの特性を理解し、体力の保持増進に取り組むことができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、体ほぐしの運動 2. タグラグビー①：基礎的技能の練習 3. タグラグビー②：ゲーム 4. 卓球（シングルス）①：基礎的技能の練習 5. 卓球（シングルス）②：応用的技能の練習 6. 卓球（シングルス）③：ゲームとスキルテスト 7. ティーボール①：基礎的技能の練習 8. ティーボール②：応用的技能の練習 9. ティーボール③：ゲームとスキルテスト 10. バドミントン（シングルス）①：基礎的技能の練習 11. バドミントン（シングルス）②：応用的技能の練習 12. バドミントン（シングルス）③：ゲームとスキルテスト 13. バスケットボール（3×3）①：基礎的技能の練習 14. バスケットボール（3×3）②：応用的技能の練習 15. バスケットボール（3×3）③：ゲームとスキルテスト 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『大学生のスポーツと健康生活』（福岡大学スポーツ科学部） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	普段から軽い運動（体操やストレッチ、ウォーキング等）を行い、体力や体調の維持に努めること。 各種目の基本的なルールについて予習しておくこと。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、授業で扱った内容を復習すること。				
評 価 の 方 法 基 準	ワークシート（20%） スキルテスト（80%）				
履 修 上 の 意 注	運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	宮崎 正宇（実務経験あり）		
授 業 科 目	生活福祉論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 社会福祉の意義や法制度について学ぶとともに、生活者の視点から、社会福祉の現状と課題について理解する。 【到達目標】 ・社会福祉の意義について理解する。 ・社会福祉の法制度について理解する。 ・社会福祉の現状と課題について理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 現代社会と社会福祉 2. 社会福祉と関連法 3. 子ども家庭福祉の現状 4. 子ども家庭福祉の課題 5. 社会保障制度の現状 6. 社会保障制度の課題 7. 障がい児・者福祉の現状 8. 障がい児・者福祉の課題 9. 地域福祉の現状 10. 地域福祉の課題 11. 低所得者の福祉の現状 12. 低所得者の福祉の課題 13. ソーシャルワーク 14. 高齢者福祉の現状 15. 高齢者福祉の課題 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	児童福祉施設での個人的な体験や相談援助の事例を通して、体系的・実践的な相談援助の価値、知識、技術を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉（第3版）』萌文書林 2022 年 必要に応じて資料を配布する。				
事前学習の内容	テキストの該当部分を読み、概要を把握しておくこと。 授業の中で、発表が必要な事柄についてレポートを提出すること。				
事後学習の内容	授業中のノートや配布資料を見直し、要点を把握しておくこと。 発表に関するコメントシートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（10%）、発表（10%）、レポート（50%）、コメントシート（30%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	稲葉 剛		
授 業 科 目	立体制作論		科目区分	関連科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 ディスプレイと立体造形について基礎知識と独自の視点を養い、比較。検討・議論を行う。 そのためにまず、ディスプレイ及び立体造形の成り立ちを把握し、基本的・部分的な制作を通じて基礎知識を身に付ける。具体的には、まず基本的・部分的な作品制作を課題作品とし、表現手法や作品の背景をなす文化的事象を含めた議論を行う。 授業終盤では、立体制作物・スピーチ・画像を交えたプレゼンテーションを行う。 【到達目標】 ・プレゼンテーションは、各課題を通じて獲得した造形的感覚・服飾販売に係るアイデア・作品の背景をなす文化的事象が含まれていること、さらには、専門用語が運用できることを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 立体造形について 2. 展開図からの立体制作 3. ヘッドパーツのプランニング・事例収集 4. ヘッドパーツの制作 5. ヘッドパーツの展示プラン及び展示案の制作 6. ディスプレイデザインについて 7. ディスプレイデザインの研究事例解題（解説） 8. ディスプレイデザインの研究事例解題（討議） 9. ディスプレイデザイン実例の検討（解説） 10. ディスプレイデザイン実例の検討（実地調査写真あるいは実例写真の収集） 11. ディスプレイデザイン実例の検討（討議） 12. デジタルカメラの基本確認・撮影演習 13. 制作するまとめ作品に関する発表・討議、作品プレゼンテーション準備 14. 作品プレゼンテーション演習 15. 授業のまとめと試験				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	必要に応じてプリントを配布する。 参考図書：『空間創造発想帖』（六耀社）				
事前学習の内容	配布プリントや資料に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業中に完成しなかった課題は、次回授業までに完成させておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	月に2回程度の提出物（30%）、試験（10%）、期末提出作品（60%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	濱田 雄仁・小久保 圭一郎		
授 業 科 目	幼児の身体・運動遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1、2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 様々な運動遊びのプログラムを観察・体験する中で、各プログラムの背景にある考え方や指導内容・方法を理解し、運動遊びの面から幼児の健康づくりについて理解を深める。 【到達目標】 ・ 幼児の運動発達や用具の特性について理解する。 ・ 運動遊びの指導内容および方法を適切に選択することができる。 ・ 幼児の運動発達や用具の特性に応じた指導を行うための実践力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 授業ガイダンス、自然環境に着目した運動遊び（担当：濱田） 2. 多様な動きの習得を目指した指導プログラム：身近な素材を使った運動遊び（担当：濱田） 3. 多様な動きの習得を目指した指導プログラム：用具を使った運動遊び（担当：濱田） 4. 運動遊びとしての組体操・組立体操①：基本的な技（担当：濱田） 5. 運動遊びとしての組体操・組立体操②：集団演技（担当：濱田） 6. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの考案①：技の選択と習得（担当：濱田） 7. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの考案②：全体の構成の確認と演技表の作成（担当：濱田） 8. 用具を操作する動きを取り入れたマスゲームの発表と相互評価（担当：濱田） 9. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム①：アクティブ・チャイルド・プログラム（担当：濱田） 10. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム②：走能力に着目して（担当：濱田） 11. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム③：跳能力に着目して（担当：濱田） 12. 幼児の運動能力の向上を目指した指導プログラム④：投能力に着目して（担当：濱田） 13. 親子に対する運動遊び指導の立案（担当：濱田） 14. 親子に対する運動遊び指導の実践（担当：濱田・小久保） 15. 親子に対する運動遊び指導の評価（担当：濱田・小久保） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館） 『保育と幼児期の運動あそび』（萌文書林） 必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	授業で扱う運動遊びの指導内容・方法について考えること。				
事後学習の内容	テキストや配布資料を見直すとともに、学んだ内容から教材研究を行うこと。				
評 価 の 方 法 基 準	ワークシート（50%） マスゲームの発表（30%） 親子に対する運動遊び指導の実践（20%）				
履 修 上 の 注 意	体育館で授業を行う際は、ジャージ等の運動ができる服装、体育館用シューズ、タオル、水分補給用の飲み物を準備して臨むこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	幼児の劇遊び演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1、2 年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 劇は様々な要素が複合された総合的な表現であり、その原点となるのが、ごっこ遊びや見立て遊び、生活再現遊び等をはじめとした劇遊びである。本授業では劇遊びを主題として、乳幼児の感性と表現を育む保育者の役割と支援のあり方、関連する知識や技術を教授する。 【到達目標】 ・ 乳幼児の表現の発達と、その過程における諸特徴を理解する。 ・ 幼児教育関係告示分に示された劇遊びに関する保育内容を中心に、そのねらい及び内容を理解する。 ・ 劇遊びに関する具体的な指導場面を想定した保育を構想し、実践する方法を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 劇表現実践（1）身体表現の基礎 2. 劇表現実践（2）言語的表現の基礎 3. 劇表現実践（3）劇的表現の基礎 4. 劇遊びに関する乳幼児の発達①乳児期 5. 劇遊びに関する乳幼児の発達②幼児期 6. 保育内容における劇遊び 7. 乳幼児の劇遊びの指導（1）内容 8. 乳幼児の劇遊びの指導（2）環境 9. 劇遊び実践（1）絵本を導入とした乳児の劇遊び 10. 劇遊び実践（2）絵本を導入とした幼児の劇遊び 11. 劇遊び実践（3）生活場面から発展した乳児の劇遊び 12. 劇遊び実践（4）生活場面から発展した幼児の劇遊び 13. 劇遊び実践（5）乳児の劇遊びの生活発表会への展開 14. 劇遊び実践（6）幼児の劇遊びの生活発表会への展開 15. 授業のまとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年。 内閣府 他：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、2018 年。 この他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	グループ毎に保育実践の準備（劇的活動に関わる製作及び練習等）を行う。				
事後学習の内容	授業後に作品制作の振り返りをすると同時に、次回への見通しを持ち、必要な準備を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（平素の取り組みや学習への参加の様子、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題発表（60%）				
履 修 上 の 注 意	表現活動を伴う授業のため、積極的な態度で受講することを希望する。 グループワークが多いので、受講者同士で積極的にコミュニケーションを図ること。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	野村 公江・別府 祐子（実務経験あり）		
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅰ		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、表現活動の中でも特に音楽表現について、乳幼児の実態に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。 【到達目標】 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された表現のねらい及び内容をおさえた上で、近年の保育実践の動向や、既存の音楽メソッド等をふまえて、より広い視点から、音楽に係る表現の多様なあり方を捉え、表現活動についての知見を深める。 ・これまでの学修を基礎として、乳幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程をふまえて、より応用的・発展的に表現活動の具体的な指導場面を想定し、保育を構想・計画・指導・実践する力を高める。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	1. 表現のねらい及び内容と音楽表現 2. 乳児の発達と音楽的表現（具体的な事例や映像からの考察を含む）と指導の留意点・保育者の役割 3. 幼児の発達と音楽的表現（具体的な事例や映像からの考察を含む）と指導の留意点・保育者の役割 4. 「聴く」ということについての視座 5. 「自然環境の中の音」教材研究（1）春の音 6. 乳幼児の歌唱表現 7. 乳幼児の歌唱指導／指導案の立案・検討（1）歌あそび（3歳未満児を対象として） 8. 模擬保育（1）歌あそび（3歳未満児を対象として）／模擬保育振り返り（録画映像による） 9. 指導案の立案・検討（2）歌あそび（3歳以上児を対象として） 10. 模擬保育（2）歌あそび（3歳以上児を対象として）／模擬保育振り返り（録画映像による） 11. 小括（乳幼児の歌唱表現とその指導）／「自然環境の中の音」教材研究（2）夏の音 12. ダルクローズの音楽教育 13. 指導案の立案・検討（3）音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び 14. 模擬保育（3）音楽と体の動きによる表現を取り入れた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 15. 表現活動における情報機器及び教材の活用について 16. オルフの音楽教育（1）概論 17. オルフの音楽教育（2）オルフ楽器の活用 18. 乳幼児と楽器とのかかわり及び楽器の扱い方／指導案の立案・検討（4）楽器を用いた遊び 19. 模擬保育（4）楽器を用いた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 20. 「自然環境の中の音」教材研究（3）秋の音の楽器づくり 21. わらべうた／コダーイの音楽教育 22. 指導案の立案・検討（5）わらべうたを用いた遊び 23. 模擬保育（5）わらべうたを用いた遊び／模擬保育振り返り（録画映像による） 24. 音を描く活動・音の様々な表し方（図形楽譜等） 25. 創造的音楽づくり 26. 指導案の立案・検討（6）音楽づくりの活動 27. 模擬保育（6）音楽づくりの活動／模擬保育振り返り（録画映像による） 28. 日本における乳幼児の音楽教育の史的変遷とこれからの表現の指導のあり方現代的課題 29. 「自然環境の中の音」教材研究（4）冬の音／幼児期の表現活動と小学校の教科との学びの連続性について 30. 音楽表現の評価のあり方とは／音楽表現・その指導法の動向について 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	中学校音楽教諭としての実務経験を生かして、音楽に係る多様な表現のあり方や、豊かな表現を引き出すための指導法について、実践的な教育を行う。				
テ キ ス ト 材 教	吉富功修・三村真弓編著『改訂 5 版 幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして』ふくろう出版、小林美実編『子どものうた 200』『続 子どものうた 200』チャイルド本社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、参考図書：全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編著『はぐくむアタッチメント 0～5 歳の手あそび・歌遊び』音楽之友社				
事前学習の内容	テキストの該当箇所を熟読し、予習を行い、疑問点等について明確にしておく。実技を伴う場合は事前練習を十分に行う。指導案作成や模擬保育を実施する授業回には、準備学習として教材研究を行う。				
事後学習の内容	テキストや関連図書で、復習を行う。指導案の検討や模擬保育を行った授業回では、アドバイスを受けた内容をまとめる等して、省察を十分に行っておく。				
評 価 の 方 法 基 準	指導案・模擬保育・模擬保育の振り返り（50%）、レポート課題（50%）				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	野村 公江			
授 業 科 目	音楽指導法特別演習Ⅱ			科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期	
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 音楽指導法特別演習Ⅰでの学修を基礎に、乳幼児が音や音楽で表現をすることの意味を改めて問い直す。そのために、音楽表現を、乳幼児の発達、人間関係、遊びや生活の視点と関連づけて捉える。そのうえで、乳幼児の音楽表現指導の方法やその課題について、熟考する。 【到達目標】 ・乳幼児の音楽表現や、その指導のあり方について、多様な視点から具体的かつ発展的に考察する。 ・保育・幼児教育における音楽表現の研究動向や課題を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 ・実践を通して保育を改善する視点を身につける。					
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 子どもの声や動きと音楽性 2. 乳幼児の音楽的表現の実際 3. 子ども同士の関わりと音楽表現 4. 乳幼児の発達と歌（1）適正音域と移調、及び伴奏のあり方 5. 乳幼児の発達と歌（2）遊びうたの創作 6. 乳幼児の発達と歌（3）遊びうたを使った指導案の作成 7. 乳幼児の発達と歌（4）遊びうたを使った指導実践と課題 8. 絵本と音楽（1）絵本の選定と構想 9. 絵本と音楽（2）イメージと音 10. 絵本と音楽（3）指導と課題 11. 様々な素材と音楽表現（1）音楽表現における「様々な素材」とは？ 12. 様々な素材と音楽表現（2）音楽表現と ICT ツールの活用 13. 様々な素材と音楽表現（3）素材と素材の組み合わせ 14. 効果的な指導のための視覚的工夫と指導方法 15. 総括 定期試験は実施しない					
実 務 経 験 を 活 か す 内 容						
テ キ ス ト 教 材	石井玲子編『実践しながら学ぶ 子どもの音楽表現』保育出版社、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』、文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』／参考図書：全国大学音楽教育学会 中・四国地区学会編著『はぐくむアタッチメント 0～5 歳の手あそび・歌遊び』音楽之友社 他					
事前学習の内容	テキストの該当箇所を熟読することで予習を行い、疑問点等について明確にしておく。 実技を伴う場合には、事前の練習を十分に行う。					
事後学習の内容	テキストや関連図書で、復習を行う。					
評 価 の 方 法 基 準	授業での課題（50%）、最終レポート課題（50%）					
履 修 上 の 意 注	なし					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習Ⅰ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 「領域『表現』のねらいと内容」「保育者の援助姿勢」「幼児期の造形表現の在り方」を軸に造形技術を修得する。受講生は本演習の履修により(1)造形素材、機器及び道具の扱い方、(2)造形原理と子どもの造形発達段階の理解、(3)保育現場における造形表現の環境構成力を修得することができる。 【到達目標】 ・ 幼児造形で実践する多種の題材について理解を深める。 ・ ICT 機器も含め、造形活動における新規的素材と活用について考察する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 初回オリエンテーション、領域「表現」の造形のねらい及び内容について理解する 2. 版の表現活動 (1) コラグラフ版画の製作、素材集め 3. 版の表現活動 (2) アルミコーティングによるコラグラフ版の製作 4. 絵の表現活動 (1) 液体粘土による絵の具作り 5. 絵の表現活動 (2) 液体粘土によるテクスチャー作り 6. 工作活動 (1) クランクによるおもちゃ作りデザイン案 7. 工作活動 (2) クランクの構造の理解 8. 工作活動 (3) クランクの工夫からデザインの発展 9. 工作活動 (4) 割りピンのおもちゃデザイン案 10. 工作活動 (5) 割りピンによるおもちゃ作り 11. ICT による表現活動 (1) コマ撮りアニメーション、シナリオ製作 12. ICT による表現活動 (2) 割りピンのおもちゃの撮影 13. ICT による表現活動 (3) アニメーションの確認 14. ICT による表現活動 (4) アニメーションの編集 15. 鑑賞活動 ICT による相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	・ 槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林 ・ 絵の具やパス、色鉛筆などの描画材料や工作活動に必要な用具や廃材は各自で準備すること。				
事前学習の内容	Classroom もしくはワークシートの二次元コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
事後学習の内容	作品とそのプロセスについて適宜写真撮影を行ない、ワークシートと共にポートフォリオを作成すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品評価 (60%)、ワークシート (40%)				
履 修 上 の 注 意	・ 各回、絵具等を使用する為、華美な服装を避け必要に応じて工作用エプロンを着用する。 ・ 牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を洗浄の上、集めておくこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	児玉 太一		
授 業 科 目	造形指導法特別演習Ⅱ		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 幼児教育における造形表現の支援を目的に、自然環境も含め、多様な素材の特性とその性質を活用した教材の作成方法と知識、幼児への支援方法の獲得を目標とする。また、ICT 機器を使用した保育教材の製作と表現活動を通じて、今日的な教材製作の手法と表現について理解を深める。 【到達目標】 ・ 幼児造形で使用する新規的な素材の使用方法を身につける。 ・ ICT を使用した錯視画像や保育教材の製作から今日的な表現活動への理解を深める。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 初回オリエンテーション 2. 版の表現活動 (1) ステンシルデザイン案 3. 版の表現活動 (2) ステンシル版の製作 4. 版の表現活動 (3) ステンシルによる布地への刷り 5. 錯視による表現活動 (1) 錯視による表現の解説 6. 錯視による表現活動 (2) ICT 機器を活用した錯視画像の製作 7. 工作活動 (1) 液体粘土による立体製作 8. 工作活動 (2) 立体作品の着彩 9. 保育教材の製作 (1) カッティングマシンの使用の解説 10. 保育教材の製作 (2) カッティングマシンで使用する素材の検討 11. 保育教材の製作 (3) カッティングマシンによる名札の製作 12. 保育教材の製作 (4) カッティングマシンによる教材の製作 13. 工作活動 (3) 光と色彩の表現活動 14. 工作活動 (4) 光と色彩の表現活動における遊びの検討 15. 鑑賞活動 ICT による相互鑑賞活動の実践と鑑賞方法について理解する 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	・ 槇 英子 著 『保育を開く造形表現』 萌文書林 ・ 絵の具やパス、色鉛筆などの描画材料や工作活動に必要な用具や廃材は各自で準備すること。				
事前学習の内容	Classroom もしくはワークシートの二次元コードを介して配信する動画から予習を行うこと。				
事後学習の内容	作品とそのプロセスについて適宜写真撮影を行ない、ワークシートと共にポートフォリオを作成すること。				
評 価 の 方 法 基 準	作品評価 (60%)、ワークシート (40%)				
履 修 上 の 注 意	・ 各回、絵具等を使用する為、華美な服装を避け必要に応じて工作用エプロンを着用する。 ・ 牛乳パック、ペットボトルなどの廃材を洗浄の上、集めておくこと。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	劇指導法特別演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1、2年次・前期（隔年）
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 様々な要素が複合された総合的な表現である劇を主題として、乳幼児の感性と表現を育む保育者の役割と支援のあり方、関連する知識や技術を教授する。 【到達目標】 - これまでの各実習や学外活動を基にして、幼児教育関係告示分に示された保育内容の領域「表現」のうち、劇表現に関するものを中心に、そのねらい及び内容に対する理解を深める。 - 乳幼児の発達過程の各段階において、指導場面を想定した保育を構想し、実践する方法を身につける。 - 保育者に求められる劇表現に関する実践力を高め、表現活動を通して主体性と協調性を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンス、劇的活動を楽しむ 2. 劇的活動の教育的意義：感性を育む 3. 劇的活動の教育的意義：イメージを育む 4. 劇的活動の教育的意義：表現を育む 5. 劇的表現基礎演習（1）身体表現 6. 劇的表現基礎演習（2）言語表現 7. 劇的表現基礎演習（3）空間的表現 8. 劇制作実践（1）計画と主題設定 9. 劇制作実践（2）脚本と配役 10. 劇制作実践（3）演技 11. 劇制作実践（4）演出 12. 劇制作実践（5）視覚的教材製作 13. 劇制作実践（6）予行演習 14. 劇制作実践（7）発表と評価 15. 幼児に対する劇的指導の留意事項と保育者の役割 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018年。 内閣府 他：『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、フレーベル館、2018年。 この他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	グループ毎に保育実践の準備（劇的活動に関わる製作及び練習等）を行う。				
事後学習の内容	授業後に作品制作の振り返りをすると同時に、次回への見通しを持ち、必要な準備を行う。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（平素の取り組みや学習への参加の様子、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題発表（60%）				
履 修 上 の 注 意	表現活動を伴う授業のため、積極的な態度で受講することを希望する。 グループワークが多いので、受講者同士で積極的にコミュニケーションを図ること。				

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	教育の思想と歴史		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 子ども観の歴史的変遷、近代から現代までの教育・保育の歴史的展開について、思想や制度に焦点をあてて、議論しながら理解を深める。その上で、教育・保育の展開を社会のあり方との関係性という観点から歴史的に考察し、「いま」そして「これから」の教育・保育という営みへのより深い理解と検討のために、教育・保育の歴史を学ぶことを目指す。 【到達目標】 ・近代から現代までの教育・保育の歴史的展開を理解し、その社会的意味を考察できる。 ・教育・保育に係る思想やその制度の歴史を理解し、議論できる。 ・現代における教育・保育の課題を歴史的な視点から考察し、議論できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンスー教育・保育における思想と歴史の概観 2. 子ども観の歴史的変遷 3. 近代における西洋の教育思想の外観 4. 近代における西洋の教育思想ールソー 5. 近代における西洋の教育思想ーペスタロッチ 6. 近代における西洋の教育思想ーフレーベル 7. 近代における西洋の教育思想ーデューイ 8. 近代における西洋の教育思想ーモンテッソーリ 9. 日本における教育・保育思想の概観 10. 日本における教育・保育の歴史ー明治期 11. 日本における教育・保育の歴史ー大正期 12. 日本における教育・保育の歴史ー昭和前期 13. 日本における教育・保育の歴史ー昭和後期 14. 日本における教育・保育の歴史ー平成期 15. 現代社会における教育・保育の今日的課題 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021 年 参考書：伊藤潔志編著『哲学する保育原理』教育情報出版、2018 年 石村華代・軽部勝一郎編著『教育の歴史と思想』ミネルヴァ書房、2013 年				
事前学習の内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業のレジメを見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート(50%)、発表の準備及び発表内容(30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%)等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	比較教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 まず、日本における教育・保育政策の動向を概説する。さらに各国や地域における現状と課題について、議論しながら考察する。その上で、各国の教育・保育の制度・保育者・就学前教育保育機関等についてテーマを設定し、調べ、まとめ、発表していく。これらを通して、教育という営みを他の国や地域の事例と比較しながら検討することで、日本における教育と社会の関係について理解を深めたり、日本で当たり前として広まっていることに疑問を抱いたりできるようになることを目指す。 【到達目標】 ・諸外国の教育改革の動向を理解する。 ・日本の教育・保育の現状と課題について理解する。 ・日本と諸外国の教育・保育を比較検討し、議論できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンスー比較教育特論における視座 2. 日本における教育・保育政策の動向 3. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦前 4. 日本における教育・保育政策の変遷ー戦後 5. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイギリス 6. 諸外国における教育・保育政策の動向ーアメリカ 7. 諸外国における教育・保育政策の動向ー中国 8. 諸外国における教育・保育政策の動向ーシンガポール 9. 諸外国における教育・保育政策の動向ードイツ 10. 諸外国における教育・保育政策の動向ーイタリア 11. 諸外国における教育・保育政策の動向ーフィンランド 12. 諸外国の教育・保育に関する議論ーテーマ設定 13. 諸外国の教育・保育に関する議論ー考察 14. 諸外国の教育・保育に関する議論ー発表 15. まとめー比較教育論的視座による日本における教育・保育政策の今日的課題の検討 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021 年 参考書：原清治、杉本均、山内乾史『比較教育社会学へのイマージュ』学文社、2016 年				
事前学習の内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業のレジюмеを見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート(50%)、発表の準備及び発表内容(30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%)等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司（実務経験あり）		
授 業 科 目	特別支援教育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 特別支援教育の定義、学校教育法施行令 22 条の 3 に規定された障がいの行動特徴を知り、個別の教育目標、内容方法と一人ひとりの幼児児童生徒に応じた指導及び支援の在り方等について、自立活動を中心に理解を深める。 【到達目標】 ・ 特殊教育から特別支援教育への変遷について説明できる。 ・ 養護・訓練から自立活動への変遷について説明できる。 ・ 自立活動の理念や基本的な考え方について説明できる。 ・ 実態把握から指導目標の設定までのプロセスが説明できる。 ・ 自立活動の指導法・評価について説明できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 『特別支援学校教育要領』改訂の経緯と基本方針 2. 自立活動の変遷と障がいの捉え方 3. 自立活動の要点 4. 自立活動の意義と指導の基本 5. 総則における自立活動 6. 自立活動の内容－1 健康の保持－ 7. 自立活動の内容－2 心理的な安定－ 8. 自立活動の内容－3 人間関係の形成－ 9. 自立活動の内容－4 環境の把握－ 10. 自立活動の内容－5 身体の動き－ 11. 自立活動の内容－6 コミュニケーション－ 12. 個別の指導計画の作成と作成の手順 13. 他領域・教科等との関連、指導の創意工夫、自立活動を主とした指導 14. 教師の協力体制、専門の医師等との連携協力 15. 個別の教育支援計画等の活用 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程（PDCA サイクル）に関して実践的に教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 文部科学省（編）（2017）『特別支援学校 幼稚園教育要領・小学部；中学部学習指導要領』開隆堂出版 文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編』開隆堂出版 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社 その他、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事後学習の内容	授業後にクラスルームの課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、クラスルームに投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価する。 全 15 回分の総合点を 15 で除し、小数第 1 位を四捨五入し評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担当教員名	小久保 圭一郎		
授 業 科 目	子どもの人権教育論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 まず、子どもの権利条約に示される子どもの人権について理解する。その上で、子どもの権利のなかでも教育・保育に関わる権利を取り上げ、議論しながら考察していく。さらに、子どもたちの教育・保育や生活について調べ、人権の観点から考察しまとめ、発表し議論する。 子どもだからこそ独自の権利があるという考え方は、歴史のなかで生み出されてきたものであり、子どもの人権の歴史や理念を理解することが、今日的課題の検討につながる。 【到達目標】 ・子どもの権利について理解し、基本的な知識を得る。 ・子どもの権利の歴史について理解し、その理念について考察できる。 ・子どもの人権について考察し、人権をどう守るか具体的に議論できる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 人権とは何か 2. 人権の理念と歴史 3. 歴史の中の子ども—児童労働との関係から 4. 子どもの権利の思想的基盤 5. 子どもの権利とは 6. 子どもの権利をどうとらえるか 7. 子どもの権利—最善の利益・発達 8. 子どもの権利—教育・保育 9. 子どもの権利—学校へ行かないこと・行けないこと 10. 子どもの権利—生活水準・学校給食をめぐる 11. 子どもの権利—虐待と分離 12. 子どもの権利—少年犯罪と少年法 13. 子どもの権利委員会 14. 子どもと人権 15. まとめ—子どもの人権に係る今日的課題の検討 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	テキスト：文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2018 年 中坪史典・山下文一・松井剛太・伊藤嘉余子・立花直樹編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房、2021 年 参考書：日本弁護士連合会子どもの権利委員会『子どもの権利ガイドブック第2版』明石書店、2017 年 山崎聡一郎『こども六法』光文堂、2019 年				
事前学習の内容	参考書に挙げているテキストや、その他本教科に関する文献やテキストを図書館等で探し、事前に目を通しておく。				
事後学習の内容	授業のレジメを見直すとともに、各回で課す小レポートを提出すること。				
評 価 の 方 法 基 準	レポート(50%)、発表の準備及び発表内容(30%)、授業内での議論への積極的な参加及びコメントカード(20%)等により総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意					

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	発達心理学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 標 目	【授業の主題】 生涯発達を踏まえ、身体、知覚、記憶・認知、知能・思考、言語・コミュニケーション、社会性、親密性、パーソナリティの発達の様相を学ぶ。子ども達の将来的な成長や発達の見通しを持ちながら関わることや、発達に見合った関わりがもたらす学習効果について理解することを目標とする。 【到達目標】 ・生涯発達の基礎理論をもとに、人の発達過程を理解できる。 ・各発達段階の特徴を踏まえ、保育の中で見通しを持った子どもとの関わりを想定できる。 ・発達を踏まえた保育者の関わりが子どもに与える学習効果を考えられる。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	1. 生涯発達の視点と保育・幼児教育 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)生涯発達とは (2)発達段階のおさらい (3)生涯発達の視点から捉える乳幼児期の重要性について 2. 生涯発達の基礎課題 (1)発達の連続性と非連続性 (2)発達の規定因 (3)発達観について 3. 身体の生涯発達—① (1)器官の成長・衰退・器官差 (2)身長と体重の変化 (3)性差 4. 身体の生涯発達—② (1)粗大運動と微細運動の発達 (2)脳神経系の発達 (3)身体の異常（先天異常／生活習慣病） 5. 知覚の生涯発達—① (1)視覚の発達と低下 (2)聴覚の発達と低下 (3)触覚の発達と低下 6. 知覚の生涯発達—② (1)触覚の発達と低下 (2)味覚・臭覚の発達と低下 (3)感覚の統合 7. 記憶・認知の生涯発達 (1)記憶の萌芽 (2)表象機能の発達 (3)自己中心性／自己中心性からの脱却 (4)記憶と認知の完成 8. 知能・思考の生涯発達—① (1)知能とは何か／思考とは何か (2)表象的思考の発達 (3)素朴理論の発達 9. 知能・思考の生涯発達—② (1)読み書き能力の発達 (2)自律的な課題解決の発達 (3)論理的思考・批判的思考の発達 10. 言語・コミュニケーションの生涯発達 (1)言語獲得とコミュニケーションの発達 (2)原初的なコミュニケーション (3)言語を超えたつながり (4)文章作成と主体／文章作成とアイデンティティ 11. 親密性の生涯発達—① (1)親密性とは (2)養育者との関係 (3)親しい友人関係の形成 12. 親密性の生涯発達—② (1)異性との関係 (2)家族としてつながる (3)守られる立場から守る立場へ 13. 社会性の生涯発達 (1)身近な大人の影響力 (2)仲間の影響力 (3)メディアの影響力 14. パーソナリティの生涯発達 (1)パーソナリティの5つの原理 (2)気質とパーソナリティ (3)価値観 (4)自己概念 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	西村純一・平野真理（編）『生涯発達心理学』ナカニシヤ出版／ISBN9784779513435 『保育所保育指針』フレーベル館／ISBN978-4-577-81423-9 『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 その他適宜資料配布				
事前学習の内容	授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。				
事後学習の内容	授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。				
評 価 の 方 法 基 準	授業での課題 (50%) 最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子（実務経験あり）		
授 業 科 目	教育相談特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年 次 ・ 前 期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 教育相談は、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。発達状況に即し、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎知識を学ぶ。 【到達目標】 ・教育相談の意義と理論を理解する。 ・教育相談に必要な基礎知識（カウンセリングマインドに基づいたカウンセリング技法）を身につける。 ・各発達期の特徴と諸問題を理解し、計画に基づいた組織的な取り組みや連携を理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 教育相談の理解 シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1)教育相談の定義、意義、目的 (2)教育相談の種類と実際（問題解決的教育相談／予防的教育相談／開発的教育相談） 2. 教育相談の基礎理論 (1)教育相談を支える心理学（臨床心理学／カウンセリング心理学／学校心理学） 3. 子どもの発達段階の理論／各発達段階特有の課題について (1)発達段階の理論（フロイト／ピアジェ／エリクソン） (2)乳幼児期：愛着形成 (3)児童期：仲間関係 (4)青年期：同一性の確立と職業 4. 子どもの抱える困難さ（反社会的行動／非社会的行動／特別な支援を必要とする子ども） 5. 教育相談の方法—① アセスメント（情報収集）の方法 (1)観察法 (2)面接法 (3)質問紙調査法 (4)検査法 (5)作品法 (6)事例研究法 6. 教育相談の方法—② アセスメントにおける諸注意 (1)心構え（インフォームド・コンセント／アカウンタビリティ／秘密保持／対象との関係） 7. 教育相談の方法—③ 行動観察の実際 (1)継続的観察 (2)焦点化観察 (3)自然的観察 (4)実験的観察 (5)記録の取り方 8. 教育相談の方法—④ アセスメント面接の実際 (1)心構え (2)面接初期／面接中期／面接後期 (3)言語・非言語によるコミュニケーションの理解 9. 教育相談の方法—⑤ 心理検査の実際 (1)知能検査（ビネー式知能検査／ウェクスラー式知能検査／その他／留意事項） (2)発達検査（質問紙による発達検査／個別式発達検査／その他／留意事項） 10. 教育相談の方法—⑥ 心理検査の実際 (1)学力検査 (2)適性検査 (3)性格検査 (4)検査バッテリーについて 11. 教育相談の方法—⑦ 質問紙調査の実際 (1)メンタルヘルス関係質問紙法 (2)パーソナリティ関係の質問紙法 (3)注意事項 12. 教育相談の実際—① チームで行う教育相談 (1)組織 (2)多様な相談資源（人的資源）の利用について (3)多様な相談資源（社会的資源）の利用について 13. 教育相談の実際—② 相談支援の現場 14. 教育相談の実際—③ コンサルテーションについて 15. 教育相談を行う専門職者のメンタルヘルス、まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	幼児の発達巡回指導、小学校での特別支援事業での経験を活かし、子どもの抱える困難さ、教育相談の方法、教育相談の実際などについて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	高柳真人・前田基成・服部環・吉田武男（編著）『MINERVA はじめて学ぶ教職⑩ 教育相談』 ミネルヴァ書房／ISBN978-4-623-08526-2 『幼稚園教育要領』フレーベル館／ISBN978-4-577-81422-2 その他適宜資料配布				
事前学習の内容	授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。				
事後学習の内容	授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。				
評 価 の 方 法 基 準	授業での課題（50%） 最終レポート（50%）				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	長 櫓 涼 子		
授 業 科 目	保育・教育臨床心理学実践特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 保育・幼児教育の現場では、長期的な子どもへの関わりを通して情報を収集・分析し、保育者の関わりが子どもの成長発達に与える効果について研究がなされる。本講義では、保育者・教育者として、子どもや養育者等の対象理解を行うための心理学的研究法を学ぶ。 【到達目標】 ・ 保育幼児教育における学問的な知識に基づき、保育実践における問題意識や目的意識を認識できる。 ・ 研究倫理を理解し、適切な研究計画を立案できる。 ・ 適切な方法により情報を収集、分析し、考察結果を報告書等にまとめる力を身につける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 保育・幼児教育の現場における研究について シラバスを参考に授業内容と進め方、評価方法等を解説 (1) 研究法概論 (研究法を学ぶ意義／心に関する概念) 2. 研究計画の立案方法 (1) 先行研究のレビュー (2) 問題・目的の設定 (3) 研究法の選択 (実験法／質問紙調査法／観察法／面接法／検査法／実践的研究) 3. 研究倫理の理解—① (1) 研究倫理の基本原則 (人格の尊重／善行／公正) (2) 対象者への配慮 (インフォームド・コンセント／個人情報の保護) 4. 研究倫理の理解—② (1) 不正行為の防止について (捏造／改ざん／剽窃) (2) 利益相反管理について 5. 研究倫理の理解—③ 研究倫理 e ラーニングの実践 6. 研究法—① 質問紙法 (質問紙法の概要／基礎概念／質問紙調査の分類とデータ収集の手順) 7. 研究法—② 観察法 (観察法の概要／量的方法／質的方法／倫理的配慮) 8. 研究法—③ 面接法 (面接法の概要／調査面接法／臨床面接法) 9. 研究法—④ 検査法 (検査法の概要／知能検査／発達領域の検査／パーソナリティ検査／適応行動・生活機能検査) 10. 研究法—⑤ 実践的研究法 (実践的研究法の概要／事例研究／実践的フィールドワーク／アクション・リサーチ) 11. データ処理・分析方法—① 尺度の種類とデータ整理 12. データ処理・分析方法—② 基礎統計 13. データ処理・分析方法—③ 推測統計 14. データ処理・分析方法—④ 仮説検定 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	三浦麻子・小島康生・平井啓 (編著) 『心理学研究法』 ミネルヴァ書房／ISBN978-4-623-08614-6 適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	授業での分担発表に備え、テキストの該当部分を事前に読んでおく。 その他に、適宜、事前学習について指示があった場合は、それについて実施する。				
事後学習の内容	授業で実施した内容について、配布資料やテキストをもとに復習する。 その他に、適宜、事後学習についての指示があった場合は、それについて実施する。				
評 価 の 方 法 基 準	研究倫理 e ラーニングに関する中間課題の提出 (50%) 研究法に関する最終レポート (50%)				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して授業時間外での予習・復習、課題遂行が必要となる。 初回授業でシラバスを使用する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	浅野 泰昌		
授 業 科 目	児童文化学特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	1 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 人間が文化的存在である前提に立てば、乳幼児期の子どもの文化的価値観を豊かに育むことは恒久的な課題であり、保育・幼児教育には文化的な視点が求められる。本授業では、現代の子どもを取りまく社会的・文化的状況をふまえ、理論と実践の両面から、児童文化に関する学習を深める。 【到達目標】 ・児童文化の歴史・概念・定義・対象・領域等に関する学びを深め、その意義を理解する。 ・作品の分析や考察、及び作家の研究を通して、児童文化を構造的に把握する。 ・児童文化財の制作と上演を通して、児童文化に関する保育の構想と実践について複合的に理解する。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 児童文化とはなにか (1) 子ども観の変遷に基づく成立史 2. 児童文化とはなにか (2) 定義・対象・領域 3. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (1) 内容的側面 4. 子どもの生活と文化の現状とその問題点 (2) 媒介的側面 5. 児童文化の伝統と継承及び創造 6. 作家論・作品論 (1) ベイビーシアター (乳児向け舞台芸術) 7. 作家論・作品論 (2) 絵本 8. 作家論・作品論 (3) 人形劇 9. 作家論・作品論 (4) アニメーション 10. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (1) 保育の構想 11. 作品理解に基づいた児童文化財の保育への活用 (2) 模擬保育の実践 12. 児童文化財の制作と上演 (1) 主題の設定、内容の検討 13. 児童文化財の制作と上演 (2) 製作と練習 14. 児童文化財の制作と上演 (3) 上演と振り返り 15. 児童文化に関わる政策、授業の総括 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	文部科学省：『幼稚園教育要領解説』、フレーベル館、2018 年。 厚生労働省：『保育所保育指針解説』、フレーベル館、2018 年。他、幼児教育関係告示文。 〔参考書〕川勝泰介/編著『よくわかる児童文化』、ミネルヴァ書房、2020 年。 その他、必要に応じて適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	指定された資料・テキストにより、次回の授業内容の予習をする。演習の準備（製作、練習等）をする。				
事後学習の内容	授業後に内容を振り返り、気づきと学びをまとめる。				
評 価 の 方 法 基 準	観察記録（平素の取り組みや学習への参加の様子、協同的学びへの貢献）（40%） 期末課題（60%）				
履 修 上 の 注 意	積極的な態度で受講することを希望する。 知識や技術の修得だけでなく、物の見方や考え方を培う姿勢や課題に対する態度を重視する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	神崎 貞子		
授 業 科 目	幼稚園体験活動		科目区分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	2年次・通年（集中）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本授業は、幼稚園や認定こども園において、教諭としてのインターンシップ・職業体験の機会として位置付けられている。具体的には、幼稚園や認定こども園における教育活動やその他の業務全般について、支援や補助業務を行う。これらの体験を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、今後のキャリア形成に資することを目的とする。 【到達目標】 ・学級担任の補助的な役割を担う中で、教諭の職務内容を理解する。 ・様々な活動の場面において、適切に幼児と関わることができる。 ・保育に必要な基礎的技術（幼児理解、環境の構成、保育の展開など）を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	配属先施設での担任による教育活動の周縁的参加を体験する。 1) 期間・日程（予定） 10月中旬に5日間の体験活動を行う。 なお、体験活動の前後に、事前訪問（9月中）と事後訪問（10月下旬）を行う。 2) 配属施設 倉敷市保健福祉局子ども未来部保育・幼稚園課および倉敷市教育委員会の協力を得て、倉敷市公立認定こども園および幼稚園で実施する。 3) その他 幼稚園体験活動の事前・事後指導の日程は、掲示板を通して提示する。 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	内閣府・文部科学省・厚生労働省『保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』レーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』レーベル館 ※必要に応じて、適宜資料を配布する。				
事前学習の内容	幼稚園教育要領解説や本科2年次の教育実習における実習日誌等を読み返し、保育者の職務について自分なりに考えること。				
事後学習の内容	幼稚園体験学習を通して、教諭の職務の実態を把握し、自己の適性や課題を明確にし、報告会において発表すること。				
評 価 の 方 法 基 準	自己課題の達成度ならびに、巡回訪問時評価表による評価（30%） 報告会での発表内容（20%） 活動記録の提出による内容の評価（50%）				
履 修 上 の 意 注	なし				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	幼児の国際理解演習		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	演習	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 グローバル化が進展する中、国際的視野を持った保育者のニーズは今後さらに高まることが予想される。本講義では、国内外の保育現場における国際理解の現状を知り、保育者自らが国際理解を深めることで、将来幼児の国際理解教育について実践できるようになることを目指す。なお、テキストは各章の事前学習・ワーク・事後学習に沿って学べるワークブックであり、演習形式で進める。 【到達目標】 ・ 将来保育者に必要な国際理解の知識を修得することができる。 ・ 国内外における保育現場について、国際理解の観点から比較し、理解を深めることができる。 ・ 幼児期の国際理解について、自ら課題を設定して、保育実践をすることができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. ガイダンス / 世界の言語 2. 国際理解とグローバル化 3. 国際社会と英語教育 4. グローバル社会における諸問題 5. グローバル社会と海外での学び 6. スペインの文化と教育 7. 国際理解と教育—ドイツの事例から— 8. 子育て支援・保育の国際比較 9. 国際理解と諸外国の保育 10. 日本の幼児教育における英語教育 11. 未来を託す国際社会における子ども理解 12. 国際理解と SDGs に関する英語絵本作成 13. 英語絵本の読み聞かせ指導 14. 英語絵本の発表 15. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	五十嵐淳子（編著）（2021）『国際関係の学び—グローバル社会の子どもの社会を見据えて—』大学図書出版				
事前学習の内容	各章に設定されている事前学習に取り組んでおくこと。				
事後学習の内容	各章に設定されている事後学習に取り組んでおくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	コメントペーパー（30%）、課題（30%）、発表（40%）				
履 修 上 の 意 注	特になし。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	松浦 加寿子		
授 業 科 目	専門英語文献講読		科目区分	基礎科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本講義の前半では、英語絵本を読んで特徴を学び、オリジナル英語絵本を作成する。また、英語圏の伝承童謡であるマザー・グースを通して英語の手遊び唄を学び、保育実践を行う。後半は、幼児英語教育に関する文献を講読して理解を深めるとともに、保育現場における英語活動の実践ができるようになることを目的とする。なお、毎回講義の冒頭では、多読またはマザー・グースを読む。 【到達目標】 ・ 英語絵本や英語児童文学を通して、様々な英語の語彙や表現を習得することができる。 ・ 英語で書かれた幼児英語教育に関する文献を読んで、幼児英語教育の理論を理解することができる。 ・ 幼児英語教育の理論に基づいて、保育現場における英語活動の実践をすることができる。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	1. ガイダンス / マザー・グースとは？ 2. 多読 / 英語絵本の特徴 3. 多読 / 英語絵本の構成 4. 多読 / 英語絵本の内容 5. 多読 / 英語絵本の作成(1)構成 6. 多読 / 英語絵本の作成(2)内容 7. 多読 / 英語絵本の作成(3)英訳 8. 英語絵本の発表 9. マザー・グース(1)Hush-A-Bye, Baby / Diddle, Diddle 10. マザー・グース(2)This Little Pig / Ride A Cock-Horse 11. マザー・グース(3)Rub-A-Dub-Dub / Wee Willie Winkie 12. マザー・グース(4)Pat-A-Cake / Pease Porridge Hot 13. マザー・グース(5)Ring-A-Ring O'Roses / Oranges And Lemons 14. マザー・グース(6)London Bridge / Baa, Baa, Black Sheep 15. マザー・グースの手遊び唄に関する発表 16. マザー・グース(7)Hickory Dickory Dock / 幼児英語教育(1)英語学習経験 17. マザー・グース(8)Pussy Cat, Pussy Cat / 幼児英語教育(2)メリットとデメリット 18. マザー・グース(9)Georgie Porgie / 幼児英語教育(3)世界の英語教育 19. マザー・グース(10)Little Miss Muffet / 幼児英語教育(4)早期開始の理由 20. マザー・グース(11)Little Jack Horner / 幼児英語教育(5)教育や就職のための英語の有用性 21. マザー・グース(12)Mary, Mary / 幼児英語教育(6)早期の言語学習のメリット 22. マザー・グース(13)Peter, Pumpkin Eater / 幼児英語教育(7)幼児・児童英語プログラム 23. マザー・グース(14)Peter Piper / 幼児英語教育(8)英語教師 24. マザー・グース(15)Who Killed Cock Robin? / 幼児英語教育(9)教材 25. マザー・グース(16)The Old Woman In A Shoe / 幼児英語教育(10)小学校との連携 26. マザー・グース(17)Rain, Rain, Go Away / 幼児英語教育(11)子どもの特徴 27. マザー・グース(18)Humpty Dumpty / 幼児英語教育(12)子どもの言葉の学び方 28. マザー・グース(19)Hey Diddle Diddle / 幼児英語教育(13)英語活動の指導 29. マザー・グース(20)Jack and Jill / 英語活動の指導案作成 30. 英語活動の発表 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	来往正三著『マザー・グースの世界』南雲堂 適宜、プリントを配布する。				
事前学習の内容	必ず予習をして臨み、未知の単語があれば調べておくこと。				
事後学習の内容	授業で学んだ語彙や表現を復習しておくこと。				
評 価 の 方 法 基 準	課題 (50%)、発表 (50%)				
履 修 上 の 意 注	英和辞書を持参すること。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	乳児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・前期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 近年の乳児保育のニーズが高まる中、乳児保育の対象者となる子どもとその環境の特性を社会情勢とそ の変化とともに理解することをねらいとする。 【到達目標】 乳児の心身の発達の特徴とそれを保障するための生活環境について学び、また乳児を持つ家族の発達や その特性、生理的な変化及び社会的環境を知り、乳児保育場面における子育て支援のあり方について理 解することを目標とする。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	1. オリエンテーション 乳児の育つ環境と保育の課題 2. 乳児の「こころ」の発達 3. 乳児の発達と動き～発達を促すかわり 4. 乳児の「気になる」発達とは 5. 生活習慣が及ぼす乳児の心身の健康への影響 6. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(1) 食事とことば 7. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(2) 排泄 8. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(3) 睡眠とその習慣 9. 乳児の発育を促すための基本的生活習慣の獲得(4) 清潔とその習慣 10. 「子育て」と「ストレス」：「子育て」は「ストレス」か？ 11. 保育所における保護者に対する支援(1) 乳児期の家族環境の理解 12. 保育所における保護者に対する支援(2) 家族不和や虐待の子どもへの影響 13. 保育所における保護者に対する支援(3) 気になる子どもの理解とかわり 14. 乳児保育と子育て支援～連携と調整における保育士の役割～ 15. まとめと試験：筆記試験（小論文形式） プレゼンテーション課題：各テーマについて、乳児保育に焦点が当て、乳児の心身の発達の特徴やその 家族の発達やその特性についてまとめること。発表者だけではなく質疑応答において適切に返答できる ことを基準とする。プレゼンテーションについては、事前の指導・相談に応じるので、積極的に取り組 むことを求める。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	助産師としての臨床経験を活かして、保育の現場で出会う健康上のニーズの高い子どもを看護するため に必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	資料は授業時に配布する。 参考資料：小西行朗著『赤ちゃん脳科学』（集英社新書）、北村晋一著『乳 幼児の運動発達と支援：気になる動きと弱さへの指導－発達障害児も視野に』（群青社）				
事前学習の内容	授業資料やテキストの予習・復習をする。受講する者はプレゼンテーションの機会があるため、パソコ ンなどの機器が使えることが望ましい。				
事後学習の内容	配布資料などをもとに事後振りかえったり、授業内容についての関心事項について調べたりすること。				
評 価 の 方 法 基 準	定期試験（40%） プレゼンテーション課題（60%）				
履 修 上 の 意 注	授業内容に関連した社会時事について関心を持ち、課題発表にはその事前学習が十分に反映されること を求める。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	平岡 敦子（実務経験あり）		
授 業 科 目	小児の看護と保育		科目区分	専門科目	1 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授業形態	講義	開 講 時 期	1、2 年次・後期（隔年）
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 こどもの病気やけがは急変しやすく、保育現場においてはその様子の変化に気づき、状況を判断して対応することが必要である。保育場面における保育の役割としてこどもの疾病やケガの発見、ケア、予防について学ぶ。 【到達目標】 こどもの健康状態、異常の早期発見、病気の予防と健康教育、応急処置、看護について理解し、保育現場において実践できる知識と技術を習得することを目標とする。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. オリエンテーション～小児の健康上の特徴と看護の定義～ 2. 子どものバイタルサインの特徴と観察方法（体温） 3. 子どものバイタルサインの特徴と観察方法（脈拍） 4. 子どものバイタルサインの特徴と観察方法（呼吸） 5. 子どものバイタルサインの特徴と観察方法（血圧） 6. 病児の特徴：全身状態の観察と健康状態の考察 7. 病児のケア：事例と考察 8. 応急処置(1) 基礎 9. 応急処置(2) 理論 10. 応急処置(3) 実践 11. 健康教育(1) 基礎理論 12. 健康教育(2) 保育現場の実践例 13. 子どものケアの技術：プレパレーション 14. プレパレーションを用いた小児の看護 15. まとめ：健康教育における教材検討 定期試験 【要点】 2～5 回目 こどもの健康な生理的状态と変化、観察の要点・方法 8～10 回目 応急処置が必要な場合の援助方法を役割と連携 11～14 回目 プレパレーション理論を基にこどもの健康教育にて用いる教材検討を行う。				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	助産師としての臨床経験を活かして、保育の現場で出会う健康上のニーズの高い子どもを看護するために必要な知識と方法について具体例を用いて講じる。				
テ キ ス ト 教 材	参考文献は授業中に提示する。 参考資料：『写真でわかる小児看護技術』インターメディカ出版				
事前学習の内容	授業資料やテキスト『子どもの保健』『子どもの健康と安全』子どもの身体・疾病の特徴、応急処置について復習する。				
事後学習の内容	配布資料などをもとに事後振りかえったり、授業内容についての関心事項について調べたりすること。				
評 価 の 方 法 基 準	定期試験（50%） プレゼンテーション課題の達成度（50%）				
履 修 上 の 注 意	授業内容に関連して事前学習を求めることがある。 動きやすい服装による参加が望ましい。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	木戸 啓子		
授 業 科 目	親子支援演習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 親子交流の場に継続的に関わることで、親子支援の進め方を理解する。 計画-実践-評価を行い、親子交流広場の運営・管理に関わる具体的知識・技術、職員の連携のあり方について理解する。 【到達目標】 - 親子交流広場に訪れる乳幼児や保護者とコミュニケーションや接近方法、遊びを身につける。 - 親子交流広場の運営に参加し、親子交流のあり方や子育て支援の具体的方法と課題を理解する。				
授 業 の 内 容 方 進 め 方	- 親子交流施設の理解(1)親子交流広場を観察し、親子の姿を把握する。 - 親子交流施設の理解(2)親子交流広場を観察し、支援者の役割を理解する。 - 親子交流施設の理解(3)親子交流広場を観察し、親子の様子からケースカンファレンスを行う。 - 親子交流施設の理解(4)親子交流広場での演習課題を検討する。 - 親子支援のプログラム立案（児童文化財） - 親子支援のプログラム（児童文化財）の展開 - 親子支援のプログラムの展開（児童文化財）に関わる事後評価 - 親子支援のプログラム立案（ふれあい遊び） - 親子支援のプログラム（ふれあい遊び）の展開 - 親子支援のプログラムの展開（ふれあい遊び）に関わる事後評価 - 親子支援のプログラム立案（行事） - 親子支援のプログラム（行事）の展開 - 親子支援のプログラムの展開（行事）に関わる事後評価 - 親子交流広場での演習課題の総括を行う。 - 中間まとめ 親子支援の振り返りを行う。 - 子ども家庭福祉の制度の理解 - 子育て支援における連携の必要性 - 子育て支援における基本的視点(1)親子の視点 - 子育て支援における基本的視点(2)社会の視点 - 地域子育て支援拠点の成り立ち - 地域子育て支援拠点の制度上の位置づけ - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(1)基本的な考え方 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(2)支援者の役割 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(3)子どもの遊びと環境 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(4)親との関係性 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(5)受容と自己決定 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(6)運営管理と活動の改善 - 地域子育て支援拠点ガイドラインについて(7)職員同士の連携と研修 - 地域子育て支援拠点における課題 - まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	渡辺頭一郎・橋本真紀『地域子育て支援拠点ガイドラインの手引き第4版』中央法規 厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 ※ 参考図書の提示や資料配布などは、授業の中で適宜行う。				
事前学習の内容	実際に親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”での実践を伴うため、日常的に子育て支援の話題に触れ、積極的な姿勢での参加が望まれる。				
事後学習の内容	親子交流広場に訪れる乳幼児や保護者との関わりや活動内容について参加記録にまとめ、親子支援に関する課題について自分の考えをもつようにする。				
評 価 の 方 法 基 準	親子交流広場への積極的参加態度（20%）、プログラムの計画及び実践（30%） 自己評価能力（30%）、最終レポート（20%）				
履 修 上 の 意 注	親子交流広場“倉短ひろば くららっこ”への日常的な参加観察を心がける。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	安久津 太一		
授 業 科 目	子どもの音楽療法		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 本科目では、保育領域において援用される音楽療法の視点及び背景理論について理解を深める。また、障がいの有無に関わらず子どもの成長を支援する音楽を媒体とする援助方法の特徴、各種技法について体系的に学ぶことを目指す。 【到達目標】 ・音楽のもつ機能と子どもへの心理的・生理的作用について理解する。 ・音楽を媒体とした子どもの発達支援について理解を深める。 ・子どもと保育者の相互的な関わり（対話）における多様な表現表出について、多角的な視点を身に付ける。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 音楽療法とは：音楽療法における音の存在、音楽の役割 2. 音楽療法の歴史：諸外国及び日本で実践・研究されている音楽療法 3. 音楽の生理的・心理的作用及び社会的機能 4. 子どものための音楽療法及び療法的音楽活動 5. 音楽療法における「臨床」と「非臨床」の考え方 6. 音楽的コミュニケーション・対話の実践 7. 現代の生活と音楽療法：ケアの視点 8. 音楽教育と音楽療法の接点①音楽構造の持つ法則性と精神機能の統合 9. 音楽教育と音楽療法の接点②創造的な活動の展開 10. さまざまな楽器を用いた音楽療法の可能性 11. 実践を通した事例検討1：音楽を媒体とした発達支援 12. 実践を通した事例検討2：子どもと保育者の相互的な関わり 13. 実践を通した事例検討3：音楽的環境の提供方法 14. 音楽中心療法：多様な参加を可能とするミュージッキングの実践 15. グループ討議・まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	稲田雅美(2016)『こころをつなぐミュージックセラピー』 高山仁著(2014)『みんなで音楽』音楽之友社（幼児と音楽遊び演習Ⅱテキスト） 参考書：若尾裕（1998）『子どもの音楽療法ハンドブック』音楽之友社 石井玲子（2020）『音楽表現』教育情報出版（幼児と音楽遊び演習Ⅰテキスト） ミネルヴァ書房稲田雅美（2003）『対話のエチュード』音楽之友社				
事前学習の内容	事前に指定されたテキストの内容について、概要を把握する。				
事後学習の内容	事後課題を提出する。 授業の中で、提示された事項について調査を求めることもある。				
評 価 の 方 法 基 準	課題の達成度（30%） 課題等の提出物（30%） 課題の発表（40%） の3つの観点から、総合的に評価する。				
履 修 上 の 注 意	討議を中心に授業を進行するので、積極的にディスカッションに参加する姿勢を求める。 関連科目（幼児の音楽遊び演習Ⅰ・Ⅱ、障がい児保育特論）を履修していることが望ましい。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	障がい児保育特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講 義	開 講 時 期	2 年次・後期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 子どもの精神発達について、横断的にとらえるだけでなく、「認識の発達水準」「関係の発達水準」の流れを辿ることによって、子どもの発達を縦断的に説明することができる。また、知的能力症、発達障がい（自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症）の概要及びそれらに合併する疾患や類似する疾患について、成因、疫学、臨床症状、検査所見、予後、治療について理解することができる。 【到達目標】 ・子どもの成長、精神発達という軸のなかで自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症の子どもの成長、精神発達の過程を説明することができる。 ・社会・文化という軸の中で、自閉症、注意欠如多動症、限局性学習症の子どもの障がい特性を説明することができる。 ・障がいのある子どもの育ちは、既知の発達段階やマニュアル通りにいかないことを説明することができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 発達の領域分け 2. 不安・緊張・孤立 3. 発達のおくれと言葉のおくれ 4. 認識発達のおくれと孤独 5. 関係発達のおくれと孤独 6. 高い感覚性の世界 7. 感覚世界の混乱性 8. 感覚の混乱性 9. 感覚の混乱性への対処努力 10. 高い衝動性の世界 11. 情動的混乱 12. 情動的混乱と対処努力 13. 児童期における支援 14. 幼児期における支援 15. 学童期における支援 定期試験は実施しない ※毎時間 10 分程度、テキストの以下の章の部分的講読を行う。 第1章 〈こころ〉をどうとらえるか 第2章 「精神医学」とはどんな学問か 第3章 精神障害の分類と診断				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	滝川一廣（著）（2017）『子どものための精神医学』医学書院 西岡育子（編）（2017）『平成 29 年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド社				
事前学習の内容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事後学習の内容	授業後にクラスルームの課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、クラスルームに投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートを S（4 点）～D（0 点）で評価する。 全 15 回分の総合点を 15 で除し、小数第 1 位を四捨五入し評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司		
授 業 科 目	子育て支援特論		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	選択	授 業 形 態	講義	開 講 時 期	2 年次・前期
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 障がいのある子どもをもつ保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（子育て支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 【到達目標】 ・保護者の心を支え、問題を解決していくために使える技法と理論を説明することができる。 ・保育現場の子育て支援の現状を理解することができる。 ・保護者の子育ての現状を分析することができる。 ・カウンセリング技法を学ぶ中で、自分の他者へのかかわり方の姿勢、価値観、生きる姿勢の変化、いわゆる自己成長に気づくことができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 親の発達・保育者の発達に影響を及ぼす社会的な課題、子育て支援の推進 2. いわゆるモンスターペアレント、特別な支援を必要とする子どもへの支援・親支援保護者集団で起こる問題 3. 保護者支援1ー成長・発達が遅い、指しゃぶり/神経性習癖ー 4. 保護者支援2ー体が弱い/虚弱、恐怖症/体験と心の発達ー 5. 保護者支援3ー音声表出・言語発達の問題ー 6. 保護者支援4ーアレルギー対応/健康への配慮ー 7. 保護者支援5ー人見知り/対人関係の形成ー 8. 保護者支援6ー排せつの自立/生活習慣の確立、テレビ・ゲーム中心の生活/生活習慣の乱れー 9. 保護者支援7ー運動が苦手/粗大運動の発達、生活のリズムの確立・獲得、手先が不器用/利き手ー 10. 保護者支援8ー言葉遣い/言葉の発達、落ち着いて行動できない、集中できないー 11. 保護者支援9ー感情のコントロール/攻撃性、表出言語理解/知的発達ー 12. 保護者支援10ー親への反抗/自己主張、登園渋り、友達とのいざこざー 13. 保護者支援11ー親同士のトラブル、母親の家族問題、嫁姑の問題ー 14. 保護者支援12ー子育てと夫婦関係、子育て不安ー 15. 保護者支援13ー親のメンタルの問題、しかり方がわからないー ※適宜、保育園・幼稚園で使える基礎的カウンセリング技法の演習を行う。 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	諸富祥彦・富田久枝（著）（2015）『保育現場で使える カウンセリング・テクニクー保護者支援・先生のチームワーク編ー』ぎょうせい 諸岡祥直・大竹尚子（編）（2020）『スキルアップ 保育園・幼稚園で使えるカウンセリング・テクニク』誠信書房 西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉』チャイルド社				
事前学習の内容	授業前にテキスト及び資料を読んでおく。				
事後学習の内容	授業後にクラスルームの課題へ「授業で学んだこと」「感想や疑問」等を書き、クラスルームに投稿する。				
評 価 の 方 法 基 準	毎授業後のレポートをS（4点）～D（0点）で評価する。 全15回分の総合点を15で除し、小数第1位を四捨五入し評価する。（100%）				
履 修 上 の 注 意	パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。 毎時間のレポートは、「Google Classroom」で提出する。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	眞次 浩司（実務経験あり）		
授 業 科 目	子育て支援実習		科目区分	専門科目	2 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	実習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 障がいのある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援のあり方などについて理解する。また、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育カウンセリング）について実践する。 【到達目標】 ・観察や子どもとのかかわりを通して子どもを理解することができる。 ・既習の科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援ができる。 ・保育の指導案、観察、記録及び自己評価等ができる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	1. 4月の親子ふれあい遊び1－模擬保育－ 2. 4月の親子ふれあい遊び1－実習－ 3. 4月の親子ふれあい遊び1－反省会－ 4. 5月の親子ふれあい遊び2－模擬保育－ 5. 5月の親子ふれあい遊び2－実習－ 6. 5月の親子ふれあい遊び2－反省会－ 7. 6月の親子ふれあい遊び3－模擬保育－ 8. 6月の親子ふれあい遊び3－実習－ 9. 6月の親子ふれあい遊び3－反省会－ 10. 7月の親子ふれあい遊び4－模擬保育－ 11. 7月の親子ふれあい遊び4－実習－ 12. 7月の親子ふれあい遊び4－反省会－ 13. 8月の親子ふれあい遊び5－模擬保育－ 14. 8月の親子ふれあい遊び5－実習－ 15. 8月の親子ふれあい遊び5－反省会－ 16. 10月の親子ふれあい遊び6－模擬保育－ 17. 10月の親子ふれあい遊び6－実習－ 18. 10月の親子ふれあい遊び6－反省会－ 19. 11月の親子ふれあい遊び7－模擬保育－ 20. 11月の親子ふれあい遊び7－実習－ 21. 11月の親子ふれあい遊び7－反省会－ 22. 12月の親子ふれあい遊び8－模擬保育－ 23. 12月の親子ふれあい遊び8－実習－ 24. 12月の親子ふれあい遊び8－反省会－ 25. 1月の親子ふれあい遊び9－模擬保育－ 26. 1月の親子ふれあい遊び9－実習－ 27. 1月の親子ふれあい遊び9－反省会－ 28. 2月の親子ふれあい遊び10－模擬保育－ 29. 2月の親子ふれあい遊び10－実習－ 30. 2月の親子ふれあい遊び10－反省会－ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容	特別支援学校での実務経験を活かし、個別の指導計画や個別的教育支援計画の作成意義及び作成・評価・修正過程（PDCA サイクル）に関して実践的に教授する。また、子育て相談の際の傾聴・共感・受容の基本的態度を教授する。				
テ キ ス ト 教 材	文部科学省（編）（2018）『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編』開隆堂出版 西岡育子（編）（2017）『平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（原本）』チャイルド社				
事前学習の内容	子育て支援センターや実習において把握した子どもの実態を確認する。 実習の主指導者を中心に指導案や教材・教具、手作りおもちゃなどの作成を行う。				
事後学習の内容	実習振り返りレポートを作成する。				
評 価 の 方 法 基 準	模擬保育（指導案：20%、教材、教具の制作・準備：20%、模擬保育態度：20%） 実習（実習態度：20%） 反省会資料（個別レポート：20%）				
履 修 上 の 意 注	実習は、年間計10回（4月～2月の土曜日）の実習を行う。9月、3月は、実施しない。 子育て支援センターへの交通費は、自費とする。 教材・教具、手作りおもちゃなどの費用は、学生が等分し実費とする。 パソコン、携帯等に「Google Classroom」アプリをインストールする。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅰ		科 目 区 分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	1 年次・通年
授 業 の 主 題 目	【授業の主題】 学修・探求の成果論文を執筆するための基礎的知識を修得する。また、2 年時に作成する「学修総まとめ科目履修計画書」に準じて、学修・探求の成果論文の構想案を作成する。 【到達目標】 ・学修・探求の成果論文のテーマの着想に至った経緯を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の目的について、その意義を説明する。 ・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程を説明する。 ・学修・探求の成果論文について、得られると予想される結果・成果の見通しを立てる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	【クラス分け方式】 ゼミナール（略称：ゼミ）を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 1～2. オリエンテーション（学位授与制度、履修方法）（担当：専攻科担任） 3～9. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の学修・探求（担当：ゼミ担当教員） 10～11. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 12～13. 学修・探求の成果論文のテーマの着想（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 14～15. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の作成（担当：ゼミ担当教員） 16～19. 学修・探求の成果論文中間発表会の資料作成（担当：ゼミ担当教員） 20～21. 学修・探求の成果論文中間発表会（担当：保育学科全教員） 22～23. 学修・探求の成果論文のテーマ（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 24～25. 学修・探求の成果論文の内容（計画）・過程（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 26～27. 学修・探求の成果論文のテーマ（仮）の着想の修正（担当：ゼミ担当教員） 28～29. 学修・探求の成果論文の目的（案）、手段・方法（案）の修正（担当：ゼミ担当教員） 30. まとめ 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 教 材	厚生労働省『保育所保育指針解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成 30 年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。				
事前学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて事後学習についての指示をする。				
評 価 の 方 法 基 準	学修過程や研究成果をもとに評価を行う。				
履 修 上 の 注 意	ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。 ゼミ配属については、希望調査をもとに調整を行う。				

学 科	保育臨床専攻	担 当 教 員	保育学科全教員		
授 業 科 目	特別研究Ⅱ		科 目 区 分	専門科目	4 単 位
必 修 ・ 選 択	必修	授 業 形 態	演 習	開 講 時 期	2 年次・通年
授 業 の 主 題 目 標	【授業の主題】 「特別研究Ⅰ」の継続科目に位置づけられる。「研究計画書（案）」（特別研究Ⅰ）にもとづいた研究課題について、フィールドでの質的・量的調査や文献研究等を主体的に行い、独自の研究結果を得て、学修・探求の成果論文にまとめる。 【到達目標】 ・学修・探求の成果論文のテーマの背景について、具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の目的と意義を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の手法・手段を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文の内容を具体的に説明する。 ・学修・探求の成果論文について、得られた結果に対する考察を行い、まとめる。				
授 業 の 内 容 進 め 方	【クラス分け方式】 ゼミナール（略称：ゼミ）を中心に学修・研究を行う。ゼミでは、ゼミ担当教員の指導助言のもと、学修・探求の成果論文を執筆する。ゼミ担当教員の指導の内容・進め方等については、各研究領域の方法による。 学修成果論文発表会において発表を行い、学士としての能力を養う。 1～9. フィールドでの調査実施計画（ゼミ担当教員） 調査方法や調査倫理（ゼミ担当教員） 調査計画に沿った研究の準備・実施（ゼミ担当教員） 10～13. 調査結果の分析結果の読み取り方、まとめ方等（ゼミ担当教員） 14～15. 学修総まとめ科目履修計画書の作成（ゼミ担当教員） 16～24. 学修成果発表会発表要旨・プレゼンテーション作成（ゼミ担当教員） 25～26. 学修成果発表会（保育学科全教員） 27～28. 学修・探求の成果論文の修正（ゼミ担当教員） 29～30. 学修総まとめ科目 成果の要旨作成（ゼミ担当教員） 定期試験は実施しない				
実 務 経 験 を 活 か す 内 容					
テ キ ス ト 材 教	厚生労働省『保育所保育指針解説（平成30年施行）』フレーベル館 文部科学省『幼稚園教育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年施行）』フレーベル館 各ゼミにおいて、研究内容に即して適宜配布する。				
事前学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて準備学習についての指示をする。				
事後学習の内容	進行状況により、各ゼミにおいて事後学習についての指示をする。				
評 価 の 方 法 基 準	授業や研究活動への主体的な取り組み状況 修了論文 学修成果発表会・修了論文報告 学修・探究とその成果（論文）に対する成績評価の基準などを基に判断する。				
履 修 上 の 意 注	発表会の準備、運営は専攻科生の協力のもとで行う。 修了論文の提出期限（提出先：学生部）は、原則として、2年次の1月中旬（別途日時を指定）とする。 ゼミ担当教員の他の授業科目をできるだけ受講することが望ましい。				